

平成 29 年 11 月の解説（府県天気予報）

【11 月の天候状況】

上旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、東・西日本を中心に移動性高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。大陸からの寒気の南下が弱く、南から暖かい空気が流れ込みやすかった北日本と沖縄・奄美では気温が高くなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、11 日は低気圧が急速に発達しながら日本海からオホーツク海へ進み、北海道を中心に大荒れとなりました。また、旬の後半は北日本から西日本にかけて大陸から強い寒気が流れ込んだため、北・東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。北日本では広い範囲で積雪となったほか、東日本日本海側を中心に平野部でも雪が降り、山沿いや山間部では積雪となった所がありました。沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多く、日照時間はかなり少なくなりました。

下旬は、低気圧と高気圧が交互に通過しましたが、旬の前半に北日本から西日本にかけて大陸から強い寒気が流れ込み、北・東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多くなりました。北日本日本海側では、日照時間がかなり少なくなりました。沖縄・奄美では、前線や湿った気流の影響で、曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、東・西日本で低く、沖縄・奄美で高く、北日本で平年並でした。月降水量は、北・東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった一方、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、西日本太平洋側では平年並でした。月間日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なく、北日本日本海側で少なかった一方、東日本と西日本日本海側で多く、北・西日本太平洋側では平年並でした。降雪の深さ月合計は北日本日本海側で多く、北・東日本太平洋側では平年並でした。月最深積雪は、北日本で多いところが多くなりました。

【11 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 86%で例年値^(注)より 1 ポイント高く、明後日予報は 81%で例年並でした。地方別の適中率では、明日予報は関東甲信地方、中国地方、四国地方以外の各地方で例年値以上となり、特に北陸地方では例年値よりも 9 ポイント高くなりました。明後日予報では、関東甲信地方、中国地方、四国地方、九州北部地方、沖縄地方で例年値を下回り、特に中国地方と沖縄地方では例年値よりも 7～11 ポイント低くなりました。それ以外の地方では例年値以上となり、特に北海道地方と北陸地方では例年値よりも 7 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.3 で、すべての地方で例年を下回りました。最低気温の予報誤差も、全国平均で例年値より 0.3 小さい 1.3 で、すべての地方で例年を下回りました。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1 月の天気予報の利用にあたって】

1 月は、冬型の気圧配置となって風が強まり雪や雨の日が多くなります。日常から大雪や、北日本や北陸地方を中心に暴風雪に備えて下さい。また、太平洋側の地方では晴れる日が多くなり、空気が乾燥して火災が起きやすくなる一方で、日本の南岸を低気圧が通過する場合などには雪が降り、少しの積雪でも交通機関の運行などに大きく影響することがあります。天気予報とともに、大雪や暴風雪についての警報や注意報、最新の気象情報、また乾燥注意報の発表状況に留意して下さい。